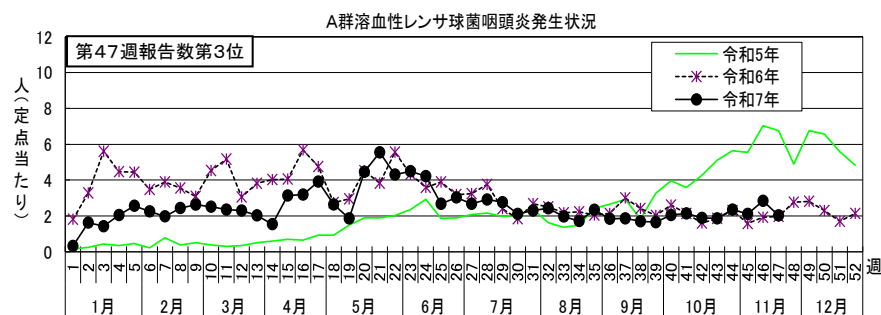
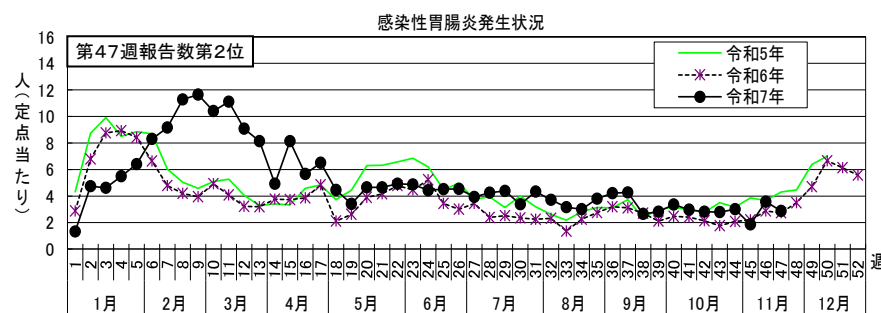
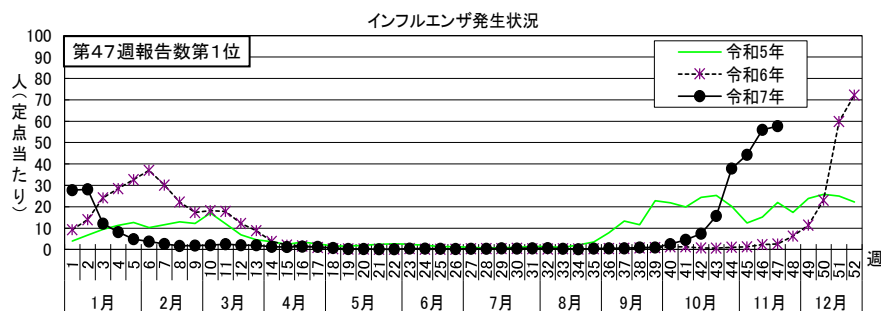
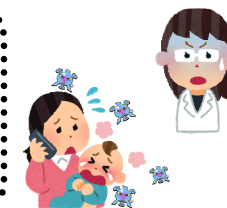


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和7年11月17日（月）～令和7年11月23日（日）〔令和7年第47週〕の感染症発生状況

第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は57.73人と前週（55.93人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.86人と前週（3.57人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.03人と前週（2.84人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



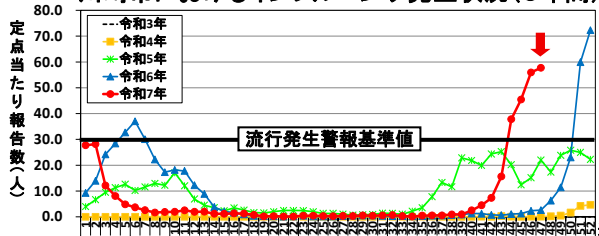
入院患者の報告もみられています！～インフルエンザ～

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和7年第47週（11月17日～23日）に57.73人となり、前週（55.93人）から更に増加しています。基幹定点からのインフルエンザによる入院患者の報告数も、11月以降15歳未満の小児を中心に報告がみられており、第47週は定点当たり6.00人となりました。

また、今シーズンに病原体サーベイランスの一環で健康安全研究所に搬入された検体のうち、計52検体からインフルエンザウイルスが検出されています。このうち51件からはA香港型が検出され、1件はA香港型とB型の両方が検出されていました。

インフルエンザは高熱や咳等の症状が続くだけでなく、脳炎等を合併することもあります。症状の変化には十分注意し、けいれんや意識障害等の症状がみられる場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況(5年間)



川崎市におけるインフルエンザによる入院患者の年齢階級別報告数及び15歳未満児の割合
～令和7年第44週～第47週～

